

先進地調査等報告書

令和7年8月7日

天童市議会議長様

会派名 清新会
氏名 鈴木照一

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期 間	令和7年7月22日（火）から 令和7年7月24日（木）まで
調査（視察）先 調査項目	<p>◎北海道恵庭市「半導体工場ラピダスの進出について」</p> <ul style="list-style-type: none">○千歳市の半導体工場進出による恵庭市への影響・関連企業等の進出・労働力確保、地価、物価等への影響・恵庭市の人口動態の変化・道路交通の混雑、住宅供給、上下水道、学校等への影響 <p>◎北海道仁木町「北海道におけるさくらんぼの現状について」</p> <ul style="list-style-type: none">○品種、収穫の時期、出荷量について○気候変動（高温や寒さ）による影響と対策について○町の補助支援について○観光面（観光果樹園）の取り組みについて <p>◎北海道千歳市「千歳市防災学習交流センター（そなえーる）について」</p> <ul style="list-style-type: none">○自主防災組織向けの訓練や支援について○地域自主防災組織の立ち上げへの支援について○子ども向けの防災教育について○災害発災時における施設の活用について
調査（視察）目的	<p>◎北海道恵庭市「半導体工場ラピダスの進出について」</p> <ul style="list-style-type: none">・恵庭市は本市と人口規模や地理的特徴が類似している。隣市の千歳市に次世代半導体工場が進出したことによる影響から、今後の本市の企業誘致や本市を取り巻く広域経済圏の中での本市の在り様の参考とする。 <p>◎北海道仁木町「北海道におけるさくらんぼの現状について」</p> <ul style="list-style-type: none">・気候変動による影響は農産物の産地へどのような変化をもたらしている

	<p>のか。北海道におけるさくらんぼ等の栽培状況を調査する。</p> <p>◎北海道千歳市「千歳市防災学習交流センター(そなえーる)について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の災害拠点整備に向けた参考とする。
<p>調査(視察)内容</p>	<p>◎北海道恵庭市「半導体工場ラピダスの進出について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○恵庭市は新千歳空港と札幌市の間に位置し、主要港(小樽港、苫小牧港)へは鉄道・道路が繋がっていて、且つアクセスの際の渋滞がない。 ○恵庭市は製造業(特に飲料・食品製造業)の立地が多い。 ○市保有の工業用地は完売している。 ○恵庭市への立地に係る問い合わせは年間約30~40件。 ○未利用地の所有企業との情報交換や仲介や斡旋を行っている。 ○立地の可能性がある企業への営業と既存立地企業へのフォローアップ。 ○ラピダス関連企業の進出は4件 <ul style="list-style-type: none"> ・NX-TECT Hokkaido(物流倉庫)他 ○恵庭市の企業誘致の方向性 <ul style="list-style-type: none"> ・道央自動車道等の交通インフラを活用した物流関連分野とものづくり関連分野 ・流通関連企業の集積を活用した食料品製造関連分野 ・農産品(馬鈴薯、大根、南瓜等)を活用した食料品製造関連分野 ・「花」によるオープンガーデンや「花とくらし展」等の観光資源を活用した観光関連分野 ・次世代半導体工場周辺に立地する特性を活用した半導体関連産業分野 ○企業誘致における重点的な取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・北海道半導体関連産業振興ビジョンを踏まえた企業誘致の推進 ・新たな工業団地の確保 <ul style="list-style-type: none"> ~2025年公示の地価では117.39%の上昇率。 ・人材確保計画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ~給与が地場企業より高い傾向にあり、技術者が転職してしまう事例がみられる。 ~自然動態は減少傾向にあるが、社会動態は転入超過となっている。 <p>◎北海道仁木町「北海道におけるさくらんぼの現状について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○四季を通じて温暖多湿、豪雪地帯に指定されているが根雪期間が短く、霜も少ないので農作物の栽培に適した気候。 ○観光農園は21軒 ○主な品目別の生産状況 <ul style="list-style-type: none"> ・さくらんぼ 100.4ha(道内ランク1位) ・生食用ぶどう 119.6ha(道内ランク1位) ・ミニトマト 69.4ha(道内ランク1位) ○さくらんぼの品種別出荷割合 <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤錦(70%)

	<ul style="list-style-type: none"> ・紅秀峰(12%) ・水門 (9%) ・南陽 (6%) ・その他 (3%) <p>○果樹栽培から施設園芸作物への転換や少子高齢化と後継者不足によるさくらんぼの作付け面積は減少傾向にあるが、新規就農者の中に「さくらんぼ」を希望する者がいることを受け、新規就農者果樹ハウス導入事業等による支援を行い、新たな担い手の確保を目指している。</p> <p>○収穫時期は 6 月下旬から 7 月下旬までだが、昨今の気候変動の影響から過去と比較して 1～2 週間程度早まっている。北海道でも最高気温が 35℃を上回ることがあり、出荷時期の実の軟化や夜温が下がらないことによる糖度低下などの事例が見られる。</p> <p>○まちとしての観光農業の取り組みは、札幌市や高速道路パーキングエリアでの産地 PR 即売会等を実施している。仁木町観光協会は例年 6 月下旬から 7 月初旬に開催している「さくらんぼフェスティバル」等による果樹観光の PR と集客強化に取り組んでいる。</p> <p>◎北海道千歳市「千歳市防災学習交流センター(そなえーる)について」</p> <p>○千歳市は、自衛隊が市街地の三方を取り囲むような形状で、北東に陸上自衛隊東千歳駐屯地、南東に航空自衛隊千歳基地、南西に北千歳駐屯地が位置している。さらに市街地との縁周部には、装軌車両、主に戦車が頻繁に通行する、延長約 10km の公道、通称「C 経路」が通っていて、東千歳駐屯地と北千歳駐屯地、その先の北海道大演習場を結んでいる。</p> <p>○C 経路は一部住宅地を通るため、沿線住民から騒音振動による被害などの声が寄せられていたことから、C 経路における騒音などの課題解決を図るため、道路整備や緩衝地帯の整備などを盛り込んだ「C 経路対策の基本方針」を定め、沿線地域の環境改善に努めてきている。</p> <p>○平成 14 年度に防衛施設周辺地域の発展に貢献する補助制度として「まちづくり構想策定支援事業」を新たに創設し、防災学習交流施設の整備が決定し、総事業費約 21 億円(国庫補助金 15.75 億円、残りの 5.25 億円は起債と市費)で、平成 22 年に防災学習交流施設「そなえーる」が開設した。</p> <p>○「そなえーる」は広さ 4.3ha で 3 階建て、延べ面積約 2,300 m²の防災学習交流センターをはじめ、広さ約 2.4ha の屋外訓練場、ロープ訓練塔、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練塔、常設ヘリポートなどを完備し、災害を「学ぶ」「体験する」「備える」をテーマに、災害の疑似体験や防災学習を通じて、防災に対する意識を高めてもらうことを目的として、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具の展示などを備えた施設となっている。</p> <p>○施設の管理運営は再任用職員 1 名、会計年度職員 7 名の 8 名体制で、午前 8 時 45 分から午後 9 時まで貸し出している。休館日は基本的に毎週月</p>
--	--

	<p>曜日。</p> <p>○市民の防災意識を高めるため、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による消火・救出等の防災訓練、救急救命率の向上のための救急講習会、市民を対象とした千歳市民防災講座や町内会、自主防災組織や事業所等を対象とした防災関連講座、子どもを対象とした防災イベントなどの事業を実施している。</p>
<p>感想</p>	<p>北海道恵庭市を視察し、本市も工業団地の整備を躊躇することなく進めるべきだ。合わせて良好な宅地をバランスよく整備し供給することで、本市の人口減少の傾向を増加に転じたいと強く感じた。</p> <p>北海道仁木町におけるさくらんぼの生産は想像以上の規模で産地化がすすんでいた。気候変動によるところが大きいですが、北海道でも近年は35℃以上になることもあるそうで、売り上げは増加しているものの作付面積や生産量は減少傾向にあるが、栽培方法を研究し生産を拡大している生産者もいる。本市も新品種に期待を寄せるだけではなく、気候変動に対応する栽培法を確立することも肝要だと感じた。</p> <p>北海道千歳市の防災学習交流施設のような大規模な学習施設が本市に必須なのか悩ましいところだが、防災訓練に必要な機能を備えていることで、いつでも訓練が可能になっている点、大規模な備蓄倉庫が整備されている点は、本市が防災拠点を整備することになった際に参考にしたい。いずれにしても国の補助金を有効に活用したいと感じた。</p>

令和7年度清新会視察等報告書

令和7年8月7日

議長 遠藤 敬知 様

水戸 保

○7月22日(火) 北海道 恵庭市

「半導体工場の進出による影響と対応について」

工業団地は市内8か所にあり、総面積337ha250社というスケールの大きさに驚いた。

すでに完売しているのに、他からの問い合わせがあるのでこれからの予定地120haを目指していると考えているが難しいのではないかと心配している。

隣の千歳市にあるラピダスの商品倉庫や半導体関連企業の進出を恵庭市は4件確認しているといい、ラピダスは車通勤を認めないのでJR沿線に高層マンションを準備しなければと新たな分野も見えており、相乗効果は確実に見えているので、大手企業の誘致は関連企業が大手についてくる可能性が大いにあるので勧めるべきである。

○7月23日(水) 北海道 仁木町

「北海道でのさくらんぼの現状について」

北海道の主力品種「水門」から佐藤錦導入は昭和63年ごろという。近年では北海道でも35℃を上回ることがあり本市同様、出荷時期に軟化したり等の事例があり、最近紅秀峰に力をいれているというので、気候変動には苦戦しているのはどこも同じであるのを実感した。現地の収穫前の園地を見せてもらったが、鈴なりの紅秀峰には驚いた。

霜対策には灯油を燃やして対応し、交配には人工授粉を徹底しており、成らせるんだという執念には感服した。

○7月24日(木) 北海道 千歳市

「防災学習交流センター(そなえーる)」

これまで他市の防災施設を見たが、規模が大きく21億円事業費の75%の国庫補助金を受けているのに驚いた。これに関しては、千歳市が防衛施設周辺地域の発展を目指していた市の施策を、防衛省に要望したのが採択されたとのこと。近くには自衛隊駐屯地・航空基地・大演習所があるとのことと理解できた。

災害が少ない千歳市に見えたが、以前に水害があり千歳空港が被害に遭った時は避難所としてホールにマットを敷いて収容したという。

また、活火山もあるとのことと災害が発生した場合は第2災害本部になる施設と説明を受けた。

先進地調査等報告書

令和7年8月4日

天童市議会議長 様

会派名 清新会

水戸 芳美

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期 間	令和7年7月22日（火）～令和7年7月24日（木）まで
調査（視察）先	視察地 1、北海道恵庭市 2、北海道仁木町 3、北海道千歳市
調査項目	◎視察内容 1、・「半導体工場の進出による影響と対応」について 2、・「北海道のさくらんぼの現状」について 3、・「千歳市防災学習センター（そなえーる）」
調査（視察）感想	■ 1、北海道恵庭市 ● 「半導体工場の進出による影響と対応」について ◇恵庭市は、新千歳空港と札幌市の間に位置し、新千歳空港から恵庭まで約15km、車で30分電車は10分、また、札幌市内までは約30km、車で40分電車は23分とアクセスが良く渋滞しないそうである。また、苫小牧港まで車で1時間、小樽港まで車で2時間となっており物流拠点として北海道内でも随一の好位置にあり物流の優位性がある。 面積 294.65 k m ² の内、国有林が約45%、自衛隊の演習場が約23%、農地が約15%、市街地が約5%と農地と市街地で全体の約20%と行政で活用できる面積は限られている。人口は、1970年（昭和45

年)に恵庭市が誕生して約3万4000人だったのが年々増加傾向で現在は、約7万人となっている。天童市より若干多い人口であるが、人口が毎年増加傾向にあるのは、200万人都市の札幌に近く新千歳空港も近く交通の便も良く恵まれて立地のためと思われる。

また、自然環境は、夏でも夜は20度を下回る気温で農業生産に奏功しており、積雪はあるが他市と比較すると少ない環境でもあり、気候は、農作物の栽培にも好影響を与えている。

恵庭市の工業団地は、全体で337ha、市が保有していた用地は既に完売。年間30~40件程度立地を検討する企業から問い合わせがある。このような状況の中、隣接する千歳市にRapidus株式会社が立地することになった。ラピダス(Rapidus)のスケジュールは、1)2023年2月28日千歳市に工場建設を表明。2)9月1日工場起工式。3)2025年4月パイロットライン立ち上げ。4)量産化開始予定となっている。

「ラピダスは、トヨタ自動車やソニーグループなど8社が計73億円を出資し2022年に設立、米IBMの技術協力を得て量産を2027年に始める計画。世界でまだ商用化の例が無い回路線幅2ナノm(ナノは10億分の1)この先端半導体は、人工知能や自動運転など幅広く需要が見込まれる。」

千歳市に半導体工場(ラピダス)の進出で、恵庭市において、新たに半導体関連企業の進出を4件確認している。また、既存の産業の労働力確保に対する影響は、地場企業より給与が高い場合が多く、育てた技術者が転職してしまう場合があるという意見が寄せられているという。地価も2024年比で上昇率が117.39%と上昇している。しかし、現状の道路の混雑や住宅供給など、目に見える影響は出ていないそうである。ラピダスの社員は、車での通勤が禁止で、電車での通勤になるようで、道路の交通混雑は回避されると思われる。今後、恵庭市でも大きな工場が立地することで、人口増加や、関連企業の進出が増えると予想され、対応が課題となってくると思われる。

■ 2、北海道仁木町

● 「北海道のさくらんぼの現状」について

◇仁木町は、人口約3000人、面積は、167.96k[㎡]で、後志管内(16町村による広域連合)の北部に位置し、北は余市町に隣接し、小樽市まで24km、札幌まで58kmと中央圏に近接している。また、町内を流れる余市川は、鮎の北限の生息地としても知られている。

気候としては、余市町を隔てて石狩湾に面しているため、対馬暖流の影響を受け四季を通じて温暖多湿、その上東西の山々が自然の防風壁となって強風も少なく、豪雪地帯に指定されているが、根雪期間が短く、霜も少ないので農作物の栽培に適しており、恵まれた気象条件や立地条件を活かし、古くから余市町と共に果樹生産が盛んである。

特に果樹のさくらんぼ、生食用ぶどう、プルーン、西洋なし等の作付け・生産量は北海道内一を誇っている他、野菜のミニトマトも道内一を誇る。また、近年は、生産者が切磋琢磨して培った高度な果樹栽培技術を活かし、シャインマスカットの生産が盛んになり、醸造用ぶどうの作付けも拡大しており多くのワイン愛好家からも注目を集めて

いる。

仁木町といえば、「くだものまち」のイメージが強いが、実は全国的なミニトマトのブランド産地でもある。生産者戸数は 108 戸、年間約 2,400 t を首都圏・関西・九州まで出荷している。生産日本一を目指し、国内最新鋭の設備と最大規模となる「ミニトマト集出荷貯蔵施設」が 2018 年に完成して、1 日最大 50 t、年間 2,000 t 以上を光センサーにより選別し箱詰めまで自動で行うことができ、更に光センサーは国内で初めて糖分だけでなくリコピン含有量の計測も可能な国内最新鋭の設備を導入して、高齢化や人口減少による深刻な労働力不足対策と、更なる品質向上を図っている。

仁木町における果樹農家の歴史は、明治初期に政府主導の開拓が進められ、明治 12 年の入植からスタートした。大正時代に入りりんごの栽培が中心だった。さくらんぼの栽培については、明治 43 年に約 1,900 kg の収穫があったと記録が残されている程度であった。

大正から昭和にかけて、りんごを中心とした栽培が続いたが昭和 30 年代から腐乱病や黒星病などの蔓延により徐々にりんご生産が不安定になってきて、りんごからぶどうへと転換していき、第三の果実としてさくらんぼの作付けが徐々に増えていった。

昭和 63 年にさくらんぼ出荷組合が設立され、さくらんぼの量産体制が整備され、作付面積が徐々に増加していった。しかし、観光産業の多様化やバブル経済の破綻等に伴い観光農園の入込者数も徐々に減少していき、昭和 59 年のピーク時に比べ、平成 5 年の調査では年間 5 万人弱と 39% まで落ち込んだ。これにより、さくらんぼの需要が徐々に減退していき、収益性が高く安定収入が見込まれる施設園芸作物のミニトマトへと転換していった。

しかし、新規就農相談でさくらんぼを作りたいという方もいるようで、町としても要望に応えるため、新規就農者果樹ハウス導入事業等による支援を行い、新たな担い手確保を目指している。また、農家の高齢化や後継者問題により離農を予定している方から、第三者による継承も進めているようだ。

仁木町のさくらんぼ生産戸数は 297 戸、作付け・生産量とも、道内で全体の 29% を占めている。令和 6 年度の生産量は、約 83 t、生産額、約 1 億 9,600 万円、kg 単価で 2,356 円であった。天童市と比べれば生産戸数や生産量は少ないが、今回、嶋田茂副議長の樹園地を見学させて頂いたが、2L・3L のさくらんぼが、枝にぎっしり隙間なく付いていた。育て方は、色々研究しており、技術の高さにびっくりさせられた。摘果や葉落としなどしなくとも、2L・3L を育てる方法として、独自のカリの肥料と水を十分に与えているということだった。参考にしたい。

3、北海道千歳市

● 「千歳市防災学交流センター（そなえーる）」について

◇千歳市の人口は、約 10 万人、面積は、594.50 k m² で東西に細長く、西に周囲約 40 k m の支笏湖、最大深度 360m を超すマユ型のカルデラ

湖で透明度が高く、日本最北の不凍湖が有り、中心部の市街地には、三方を囲むような形状で自衛隊がある。北東に陸上自衛隊東千歳駐屯地、南東に航空自衛隊千歳基地、南西に北千歳駐屯地が位置している。各部隊に配属されている隊員とその家族を含めると人口の約 25% を占めている。また、新千歳空港もあり、比較的雪が少なく年間を通じて南北に風が吹く日が多いことから滑走路は全て南北に延長されている。

千歳市防災学習交流施設建設の経緯は、市街地に自衛隊があり、縁周部には装軌車両、主に戦車が頻繁に通行する。延長約 10 km の公道、通称「C 経路」が通っており、東千歳駐屯地と北千歳駐屯地、その奥に続く北海道大演習場を結んでいる。この C 経路は、一部住宅を通るため沿線住民から騒音振動による被害などが寄せられていたことから、道路整備や緩衝地帯の整備などを盛り込んだ「C 経路対策の基本方針」定め環境改善をしてきたが、地域の活性化や生活環境の更なる改善が要望されていた。

このような状況の中、平成 14 年度に、防衛施設周辺地域の発展に貢献する高額の補助制度として「まちづくり構想策定支援事業」を新たに創設したため、C 経路沿線の課題解決を図るとともに、市の総合計画で位置づけている防災対策の推進や自主防災組織の充実の観点から、住民要望や住民懇話会での議論を踏まえて防災学習交流施設の整備が決定された。

総事業費は約 21 億円、防衛省所管の民生安定事業を活用し、国庫補助率 75% (15.75 億円)、残りの 25% (5.25 億円) の内起債と市債に振り分けしている。

総面積約 8.4ha で、A・B・C の 3 つのゾーンで、A ゾーンが「そなえーる」4.3ha、B ゾーン「学びの広場」1.1ha、C ゾーン「防災の森」3ha で、今回視察したのは、A ゾーンの「そなえーる」防災学習センターである。

そなえーるの防災学習センターは、3 階建延べ面積約 2,300 m²で、ロープ訓練棟、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練棟、常設ヘリポートなどを完備し、災害を「学ぶ」「体験する」「備える」をテーマに災害の疑似体験や防災学習を通じて、防災に対する意識を高めてもらうことを目的に、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具の展示などを備えた施設である。その施設の起震装置で、過去の大きな地震があった震度の模擬体験をしたが、震度 5 から 6 以上になると、何かにつかまっていけないと立ってられなく地震の恐ろしさを知った。

施設の課題として、開設から 15 年を迎え老朽箇所の修繕や大規模な設備の改修や体験コーナーの新設など多額の経費が予想され、予算確保が大きな課題になっている。

天童市でも防災施設を建設する場合、防災学習、防災訓練ができ、自主防災会や防災関係団体と連携して防災事業が行えるような施設にする必要があると思う。また、運営の工夫も必要である。

先進地調査等報告書

令和7年8月7日

天童市議会議長様

会派名 清新会

氏名 佐藤俊弥

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告致します。

記

期間	令和7年7月22日（火）～24日（木）
調査（視察項目）	1. 北海道恵庭市 半導体工場の進出による影響と対応について。 2. 北海道仁木町 北海道のサクランボの現状について。 3. 北海道千歳市 防災学習センター「そなえーる」で行っている防災について学ぶ。
調査（視察目的）	1. どこの地域も企業誘致に積極的に取り組んでいるが、なぜ北の北海道に大手企業が誘致可能なのかを学ぶ。 2. 高温化する気象状況の中、本市の基盤である農業についての考え方などを日本の北に位置する北海道の取り組み方などを学ぶ。 3. 千歳市防災学習センターの取り組み方を学ぶ。
調査（視察内容）	1. 日本の北部に位置する北海道に大手企業が集約できるのか、恵庭市は千歳空港から札幌市との間にある、また近隣には自衛隊や演習場も備わりアクセスの際渋滞がない、企業が候補に挙げる理由としての評価が高い事が感じられた。 2. 本市の特産物であるサクランボ栽培を北海道でどのように作っているのか、また近年の高温災害での影響を見極めたい。外国人労働者の受け入れも積極的で労働力不足にも対応している、これからの農業を支え共存していく人間関係も必要不可欠と教えられた。 3. 防災意識を高めていく今、何をすべきか一層関心を高めるために理解を深められる施設と思えた。
所管	1. 物流拠点として北海道でも随一の好立地にある恵庭市の工業団地には食品工場から最先端の半導体製造技術で製作されている半導体をはじめ流通や品物を保管する倉庫などの建設もある。また気密性の高い物流倉庫を日本通運が関連企業として進出している事にも驚いた、

	<p>またこれからは人材確保の推進を挙げていた。</p> <ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="416 315 1361 539">2. 仁木町には農業振興の一環として特定技能の外国人労働者が200人以上働いている、働き手があっても住宅問題が進んでいない状況があって、福祉や産業分野において人材確保に伴う住居の不足については喫緊の課題と、またサクランボ栽培は知識が非常に豊富で近代農業への取り組み方も痛感できた。<li data-bbox="416 539 1361 763">3. 千歳市防災学習交流施設は国の施設であり防衛の補助もあり15年前に完成した総額20億円以上の規模で、近くに自衛隊や防衛施設などがある。庄内三川町にある県防災センター施設と同等の施設であったが見学者に対する職員の防災意識やアシスタントの説明が丁寧でわかりやすかった。
--	--

以上

天童市議会清新会 行政視察報告書

天童市議会議長 様

経済建設常任委員会
委員 古澤 義弘

1 日程、視察先及び視察内容

日程	視察先	視察内容
7月22日(火)	北海道恵庭市	半導体工場の進出による影響と対応について
7月23日(水)	北海道仁木町	さくらんぼ栽培の現状について
7月24日(木)	北海道千歳市	自主防災組織の訓練や防災学習について

2 報告事項

- (1) 千歳市に半導体工場、ラピダスが進出し隣接している恵庭市の影響と対応について伺ってきた。現状同市の工業団地の特徴として、飲料・食品などの製造業が中心となっているとのこと。年間30~40件程度立地を検討する企業からの問い合わせがあるが、現状市の保有する工業用地は既に完売している。今後、半導体関連産業分野での企業誘致も含め新たな工業団地整備を推進していくとのことであった。
- (2) 近年の気候変動で、高温による障害がさくらんぼ栽培に顕在化してきている。栽培の適地が北上しているのか、仁木町におけるさくらんぼの現状を伺ってきた。昭和63年に出荷組合が設立され、作付面積も徐々に増加した。品種別では、佐藤錦が7割を占め紅秀峰と続く。販売単価では、紅秀峰、佐藤錦、南陽と続く。共撰での販売数量は約107tであるが、現状として、果樹栽培から施設園芸作物への転換や、少子高齢化、後継者不足により、さくらんぼの作付けは徐々に面積を減らしているとの事であった。
- (3) 防災学習交流センター「そなえーる」は総事業費約21億円、内国庫補助は75%である。施設の利用状況は、市の総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による、消火、救出等の防災訓練、救急講習会等を行っている。年間約20,000人の方が利用している。

会派先進地視察等報告書

令和6年7月22日～24日

佐藤孝一

7月22日

北海道恵庭市 半導体工場の進出による影響と対応について

恵庭市は豊かな自然と豊富な地下水、少ない積雪量など好条件がそろっている。恵庭市の工業団地に占める業種は食品製造業・流通業が多く、大都市札幌と空の玄関の千歳市と海の玄関である苫小牧市との中ほどに位置する恵庭市は物流の中継地点になっている。

現在、337hrの工業団地は完売しており、新たな企業が進出できる空きはない。千歳市にラピダスが進出したことにより、日本通運は倉庫を開設してラピダスの物流を担っている。30から40hr規模の新しい工業団地の開発を計画しており住居の不足も懸念され新市街地の開発も計画している。

ラピダスに納入する企業がこれから進出してくる可能性があり、今後は半導体工場の誘致に関しても力を入れて行く。

本社が東京など高賃金の企業が多く、地元の企業との格差で社員募集に差が出ている。市が主導し合同企業説明会を開いている。

地価については、千歳市、北広島市は上昇中恵庭市も上昇している。

本市でも20hrの工業団地の造成に向けて事業が動き出したが、企業誘致や人材の育成、住居の確保などの課題解決にむけ検討を進めていく必要がある。

7月23日

北海道仁木町 北海道のさくらんぼの現状について。

仁木町は北海道としては温暖多湿で根雪期間は短く、霜も少ない。

現在、農家は297戸北海道を代表する果樹産地。さくらんぼ・ぶどう・プルーンは道内一の作付。最近はミニトマトの生産を拡大し道内一の生産地となっている。

労働力は20年前から外国人実習生を受け入れており人口の約1割の250人が働いている。

さくらんぼの歴史としては昭和51年に桜桃研究会を結成。昭和53年さくらんぼ出荷組合が設立され作付面積は徐々に増加した。観光ブームも追い風となり観光農園も拡大。しかし、社会情勢などにより観光農園の入場者数も減少。平成五年では年間5万人となりピーク時の約40%まで落ち込む。以降、さくらんぼの需要は減退し、安定収入が見込める施設園芸作物ミニトマトへの転換が進む。

現在では果樹栽培からミニトマトへの転換や少子高齢化、後継者不足によりさくらんぼの作付けは減少しているが、新規でさくらんぼ就農の希望もありハウス導入等の支援を行っている。

樹園地の視察を行ったが7月23日でも、さくらんぼには未収穫の果実が鈴なりに実っており間もなく収穫の時期を迎えるとのことだった。施肥や灌水についての知見を伺った、また温暖化が進むなかでさくらんぼの生産地は、徐々に北へ移動するものと思われる。

本市の農業政策のうちさくらんぼに関しては、高温に強い品種の導入や、灌水・高温対策など急務である。また視点を変えればさくらんぼに変わる農産品の研究なども進めていくことが重要と考える。

7月24日

北海道千歳市 防災学習交流センター「そなえーる」

北海道ならではの広大な土地に総面積 8.4hr の施設を平成 18 年から 22 年にかけて防衛の民生安定事業の補助を受けて整備。

敷地内の防災学習交流センター内には地震体験・煙避難体験・予防実験のコーナーがあり、室外には、防災訓練広場・消火体験訓練広場・野営生活訓練広場・河川防災訓練広場・土のう訓練広場などが整備してあり、生活の中のさまざまな機会での防災について学ぶことができる施設である。

本市においても近年では温暖化による異常気象や自然災害、また野生動物の生活区域への侵入等、生命や財産が脅かされる場面が増えている。精度の高い防災訓練の実施や住民の防災意識を高める有効な施策を考えていかなければならない。

清新会行政視察レポート

滝口茂之

1. 視察先 北海道 恵庭市、仁木町、千歳市
2. 日程 令和7年7月22日(火)～令和7年7月24日(木)

◆北海道恵庭市における半導体工場ラピダスの進出による影響について

恵庭市の概要

恵庭市は山口県岩国市から集団移転した歴史を持つ。札幌市までJRで30分とアクセスが良く、陸上自衛隊の駐屯地が置かれている。豊富な地下水に恵まれ、農業が盛んであると同時に、サッポロビール、ヤマザキパン、明治、森永といった大手食品企業や、日本エクスプレスなどの物流関連企業が多く立地している。市内には8ヶ所の工業団地があり、全区画が完売している。また、ガーデニングの街としても知られている。

ラピダス進出による影響

ラピダスの工場は恵庭市から車で約90分離れた場所に位置している。

- 交通・インフラへの影響
ラピダスは従業員に車で通勤を認めておらず、公共交通機関の利用を促しているため、工場の操業による直接的な交通渋滞は発生していない。
- 不動産市場への影響
ラピダスの給与水準はかなり高いことから、従業員はJRの駅周辺に居住する傾向が見られる。また、工場が立地する千歳市や近隣の北広島市で地価が高騰している影響を受け、より安価な住宅を求める人々が恵庭市に流入している。これにより、恵庭市内の不動産需要が高まっている。

まとめ

恵庭市はラピダス工場から距離があるものの、交通の利便性や地価の優位性から、周辺地域の住宅需要を吸収し、人口流入や不動産市場の活性化といった間接的な恩恵を受けていることが確認された。これは、ラピダス進出による広域的な経済効果の一環である。

◆北海道仁木町におけるさくらんぼの現状について

仁木町の概要

仁木町は徳島県と山口県からの移民によって開拓された歴史を持つ。北海道内でも有数の果樹の町として知られており、元々はりんごの栽培から始まったが、現在ではさくらんぼ、ぶどう、ブルーベリーなど多岐にわたる果樹が栽培されている。特にさくらんぼは、ふるさと納税の返礼品としても人気が高く、町の特産品として重要な位置を占めている。

近年では、ミニトマトの栽培が盛んになっており、農家の約7割がミニトマトを栽培しているとのことである。これは、果樹栽培とミニトマト栽培を組み合わせることで、農業経営の安定を図っているためだ。

また、農業の担い手不足を補うため、外国人技能実習生の受け入れも積極的に行われており、人口約3,000人の仁木町に対し、実習生は250人ほどが就労しているとのことであった。

仁木町のさくらんぼの現状

さくらんぼは、その生産量が北海道一を誇り、名実ともに道内の主要な産地となっている。昼夜の寒暖差が大きい仁木町の気候風土は、甘く色鮮やかなさくらんぼの栽培に適している。

品種については、「佐藤錦」や「紅秀峰」、「南陽」などが特に人気である。収穫期は概ね 6 月下旬から 8 月上旬にかけてで、これは山形県からみても半月から 1 か月ほど遅い時期にあたる。多くの観光農園がさくらんぼ狩りを提供しており、木の上で完熟した新鮮な実を味わうことができる。また、全国に向けた通信販売や、町内の直売店での販売も盛んに行われている。

副議長の個人農園視察

副議長の個人農園に伺った。農園では、ちょうど南陽という品種のさくらんぼがたわわに実っていた。栽培方法については、山形県とは異なる点がいくつか見受けられた。特に摘果（果実を間引く作業）は行っておらず、自然な状態で実を育てる方針であった。また、さくらんぼの他にもミニトマトのハウスがあり、こちらも多くの実をつけていた。



◆北海道千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について

千歳市の概要

北海道千歳市は、新千歳空港を擁する空の玄関口だ。市域の約 40%を陸上自衛隊と航空自衛隊の基地が占めており、国防の重要拠点としての役割も大きい。また、近年は半導体製造の新会社「ラピダス」の工場が建設されるなど、先端産業の集積地としても注目されている。

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」は、総工費約 21 億円をかけて建設された施設である。この事業は、防衛省が所管する「民生安定事業」を活用しており、総事業費の 75%に相当する補助金が国から交付されている。そなえーるは、千歳市の総合計画における防災対策の推進や、自主防災組織の充実を図る目的で整備された。

施設概要

そなえーるは、防災に関する知識や技術を体験しながら学べる施設である。建物は鉄骨造2階建てで、延床面積は約1,500平方メートル。非常時の備蓄倉庫や発電機も備えている。

学習・体験エリア

1階には、地震、火災、風水害に関する体験ができるコーナーが設けられていた。特に印象的だったのは、震度7クラスの揺れを体験できる地震体験装置で、利用者は揺れの大きさとそれに伴う危険をリアルに感じることができる。また、消火器の使い方も模擬的に体験できるコーナーもあり、実践的な防災知識を習得する上で非常に有効だと感じた。

交流・情報提供エリア

2階は、市民の交流スペースや、防災に関する資料を閲覧できるライブラリーとなっていた。大型モニターでは、災害発生時の避難経路やハザードマップが常時表示されており、地域の防災情報を確認する上で有用である。また、会議室も完備されており、地域の防災訓練やワークショップにも利用できるようになっている。

まとめ

千歳市防災学習交流センターそなえーるは、単なる知識の提供に留まらず、体験を通して防災意識を高めるための工夫が随所に見られた。特に、様々な年代の利用者が楽しみながら学べるよう、体験型コンテンツが充実している点は高く評価できる。市民の防災リテラシー向上に大きく貢献する施設であると感じた。

行政視察報告書

清新会 駒延法子

1 北海道恵庭市

恵庭市の産業は農業が基幹産業であり、稲作のほかにえびすかぼちゃ、じゃがいも、ブロッコリーなどの特産品を生産しています。また、市内には8か所の工業団地があり、札幌ビール北海道工場や山崎製パン札幌工場など有名企業が誘致されているのはうらやましいところでした。

恵庭市は北海道内でも他の地域と比較して、積雪量が少ないです。これは、天童市にもいえるメリットなのではないかと思えます。新千歳空港が隣接する千歳市にあるのは、札幌に近く、雪が少ないという気候が理由の一つです。主要な空港や港、そして鉄道や道路が恵庭市を經由しているため、物流拠点としても重要な位置を占めています。

市は今後、千歳市に立地する半導体工場ラピダス社の影響に対応するために、新たな市街地を整備し、工業団地の確保や人材の確保の取り組みを進めていく方針です。特に千歳市に近い砥石地区での工業用地拡大を検討しています。

ラピダスの千歳市への進出は恵庭市にも影響を与えています。日本通運が半導体関連の物流倉庫を恵庭市内に開設し、ラピダス社の物流業務を受託しています。また、半導体関連の企業の問い合わせも増加し、メンテナンス拠点として進出している企業もあるとのことでした。

ラピダスの進出と近隣のプロ野球本拠地に影響により、恵庭市の地価は上昇傾向にあります。労働力についても、ラピダス社のほうが給料が高いために、既存企業から流出する可能性があります。

天童市でもメイコー山形が山口西工業団地に誘致されましたが、近隣の企業からの人材の流出がないのかどうか懸念しているところではあります。

恵庭市の人口は自然減ではあるものの転入者が多いために社会増となっており、全体としては増加傾向にあります。これは、千歳市や北広島市よりも家賃が安い傾向にあるために、それらの地域で働く人々が恵庭市に住居を求めていることが、一因と考えられます。天童市も社会増になれるように工業団地の整備から始まり、若い人材の働ける職場作りに積極的に動かなければ人口減に歯止めがきかなくなる可能性があるとして一市議としては、一抹の不安を覚えています。

2 北海道仁木町

仁木町は北海道西部に位置する豪雪地帯で、短期間の降雪と少ない霜という気候条件を生かし、果樹栽培が盛んな地域です。特にサクランボ、ブドウ、プルーン、ミニトマトの生産量は道内トップクラスになります。

仁木町のサクランボ栽培は明治時代のリンゴ栽培からはじまり、昭和 43 年にサクランボ研究会が設立されて本格的になったようです。一時は観光ブームで作付け面積も増加しましたがバブル崩壊などで観光客が減少し、ミニトマトなどの収益性の高い作物に転換が進んだようです。

現在も後継者不足や高齢化により、作付け面積が減少しているところは天童市と似たようなところがありますが、町では生産を奨励しているとのことでした。天童市が学ぶ面としては、暑さに強い品種に重点をおいて栽培を強化していくほかないのではないかと思います。

毎年の高温障害、今年においては受粉時の天候や風などによる被害。

J A とタイアップした対策が急がれます。

3 そなえーる（千歳市防災学習交流センター）

千歳市では、北海道直撃した台風 18 号や暴風雪、活断層による地震、航空機事故、弾道ミサイル攻撃といった様々な災害が予測されています。これらの災害にそなえるために設立された防災施設でした。

以下、様々な災害対策や取り組みが行われています。

施設と訓練

体験学習（小学生）

地域防災

災害時の活用

総括

今回の視察は、農業、工業、防災と 3 つの視点からの視察になったが、まずもって北海道も猛暑であり、異常気象というより気候変動が進み、産業形態の変革を余儀なくされている現代社会なのではないかと思いました。

天童市も 6 万人の人口をきってしまいました。社会増を求め、我々議会、執行部一丸となり天童市の産業をきめ細やかに盛り立てていく必要があると感じた視察でした。

天童市議会清新会 行政視察報告書

令和7年7月31日

天童市議会議長 様

天童市議会 会派 清新会
新関 知己

1 日程、視察先及び視察内容

日程	視察先	視察内容
令和7年7月22日	恵庭市	・半導体工場の進出による影響と対応について
令和7年7月23日	仁木町	・北海道のさくらんぼの現状について
令和7年7月24日	千歳市	・千歳市防災学習センター 「そなえーる」について

2 報告事項

(1) 北海道恵庭市（場所：恵庭市役所）

「半導体工場の進出による影響と対応について」

・次第

1 開会

2 あいさつ

恵庭市議会副議長 武藤 光一 氏

天童市議会会派清新会 会長 鈴木 照一 氏

3 視察事項説明 恵庭市経済部商工労働課 課長 上山 謙太郎 氏

「半導体工場（ラピダス）の進出による影響と対応について」

4 質疑応答

5 あいさつ

天童市議会清新会 幹事長 水戸 芳美 氏

6 閉会

○恵庭市の位置

・新千歳空港と札幌市の間に位置し、アクセスが良く渋滞もない。

○恵庭市の概要（1886年（明治19年）山口県から集団入植）

- ・人口70,251人（2025年6月末）
- ・面積294.65km²（国有林：約45%。 自衛隊演習所：約23%。
農地：15%。 市街地：約5%）

○恵庭市の物流優位性

- ・主要空港、主要港湾への鉄道や道路は、多くが恵庭市を経由している。
- ・物流拠点としては、北海道でも随一の好立地である。

○恵庭市の工業団地

- ・8つの工業団地で構成。

○恵庭市工業団地の特徴

- ・恵庭市は製造業（特に飲料・食品製造業）の立地が多い。
（恵庭市は地下水が豊富にあるため）

○恵庭市の企業誘致を取り巻く現状

- ・恵庭市への企業立地の問合せは年間30～40件で、市が保有している工業用地はすでに完売しており、未利用地所有企業との情報交換。仲介・斡旋、ワンストップ窓口による既存立地企業へのフォローアップ。この状況の中、恵庭市には土地がないので、隣接する千歳市へラピダスが立地。

○天童市からの質問（ラピダス進出による影響として）

- ・恵庭市に新たな半導体関連企業が4件進出。
- ・ラピダスの給料が地場企業より高い場合が多く、育てた技術者が転職してしまう。地価の上昇率が117.39%となった。
- ・人口の流入はさほど変化なし。
- ・道路交通の混雑。上下水道、学校のキャパシティへの目に見える影響は、出ていないが、今後調査する。

●所感

恵庭市は、札幌市からも近いので、平常時に降雪等による交通網に影響があると思っていたら、積雪深も天童市とさほど変わらないとのことだった。

また、街全体が地下水の量が豊富なので、半導体製造会社や飲料会社が多く集まることも納得できた。

本市の工業団地についても、企業誘致を行う場合、各工業団地には、どの業種に適しているかを明確にしていく必要があると感じた。

(2) 北海道仁木町（場所：仁木町議会委員会室）

「北海道のさくらんぼの現状について」

・次第

1 開会

2 歓迎の挨拶

仁木町長 議会議長 佐藤 聖一郎 氏

仁木町議会副議長 嶋田 茂 氏

3 挨拶

天童市議会会派清新会 会長 鈴木 照一 氏

4 出席者紹介

5 視察事項

「北海道でのさくらんぼの現状について」

6 意見交換会

7 挨拶

天童市議会会派清新会 幹事長 水戸 芳美 氏

8 閉会

○仁木町の位置

・北海道の西部、後志管内の北部に位置し、小樽市まで23km、札幌市まで58kmと道央圏に近接している。

○仁木町の環境

・北限の鮎の生息地の余市川に沿って広がっており、自然に恵まれた農村で、春は、果実の花、夏は、桜桃の実、秋はブドウと稲穂が町を包む。

○仁木町の気象

・余市町を隔て石狩湾に面し、対馬暖流の影響を受け四季を通じて温暖多湿で、東西の山々が自然の防風壁となり強風も少なく、豪雪地帯に指定されているが、根雪期間が短く、霜も少ないので農作物栽培に適している。

○仁木町の主な農作物

・さくらんぼ、生食用ぶどう、プルーン、西洋梨等の作付け、生産量は、道内一を誇っている。道内第一位のミニトマトは、全国的なブランド産地となっている。新たな果物としてシャインマスカットがふるさと納税の返礼品となっている。

○天童市からの質問（北海道のさくらんぼの現状について）

- ・ さくらんぼの単価は上がっている。収穫時期は、6月下旬から7月下旬まで、20年前から比べると1～2週間早まっている。
- ・ 最高気温が35度を上回ることがしばしばあり、出荷時期に実が軟化したり、夜間温度が下がらずに糖度が乗ってこないなどの事例がみられる。
- ・ 町の単独支援として新規就農者向けに果樹ハウス導入事業を実施しているほか、電柵等の有害鳥獣対策費の補助を行っている。
- ・ 観光果樹園の観光面では、即売会や観光協会でのパンフレット、ホームページ等での情報発信など、集客強化に取り組んでいる。

●所感

以前、網走市でもさくらんぼが取れると聞いた時は驚いたが、実際に仁木町を視察したら昭和63年から栽培を行っていると聞いて驚いたが、仁木町でも近年高温で、さくらんぼが「うるむ」と言われたのには驚いた。もはや、さくらんぼは、北海道でも高温により生産が減少するのではないかと危惧した。

イメージとしては、北海道は避暑地としてのイメージだったが、自然環境の変化により、生産地がどんどんと移動していくのかなと感じた。



歓迎サイン



意見交換



嶋田副議長の農園



最盛期の南陽

(3) 北海道千歳市（場所：そなえ～る）

・次第

- 1 開会
- 2 あいさつ 千歳市防災学習交流施設 施設長 佐藤 孝一 氏
- 3 あいさつ 天童市議会会派清新会 会長 鈴木 照一 氏
- 4 視察説明
- 5 質疑応答
- 6 施設体験
- 7 あいさつ 天童市議会会派清新会 幹事長 水戸 芳美 氏
- 8 閉会

○千歳市の概要

- ・石狩平野の南部に位置し、札幌市や小牧市など4市4町に隣接し、札幌市までJRで約30分。降雪量は約1mと北海道の中では、比較的少ない。

○防災学習交流施設の目的

- ・市民（自主防災組織）、ボランティア、防災関係機関が単独又は相互に連携し、防災学習や防災訓練等を実施することで、市民や防災機関の防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深める事を目的としたもの。また、市街地の縁周部には、自衛隊車両が通行する10kmの公道の緩衝地帯の役割も果たしている。

○防災学習交流施設事業費・工程

- ・事業期間：平成18年度～22年度（平成17年度に補助事業として採択）
- ・整備面積：約8.4ha
- ・総事業費：約21億円（防衛の民生安定事業：補助率75／100）
- ・管理・運営：市直営（職員：8～9名）

○天童市からの質問

- ・防災学習や防災訓練等を実施することで、市民や防災機関の防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深めることを目的としたもので、特に、子どもに特化したものは無い。



そなえ〜る



座学



煙体験



地震体験

●所感

「そなえ〜る」には、多く視察が見えられるようだ。敷地内に防災拠点としての設備はないそうだが、広大な敷地があるので、様々な対応ができると感じた。隣接している道路も幅員が広いので、災害の集結ポイントにも活用できると感じた。

また、新千歳空港には、航空自衛隊も隣接していることから、航空自衛隊で運用している、政府専用機の格納庫もあり、1・2号機が常駐しているようだ。滑走路横には、国家構想のラピダスも建設中であった。



滑走路奥、建設中の建物がラピダス